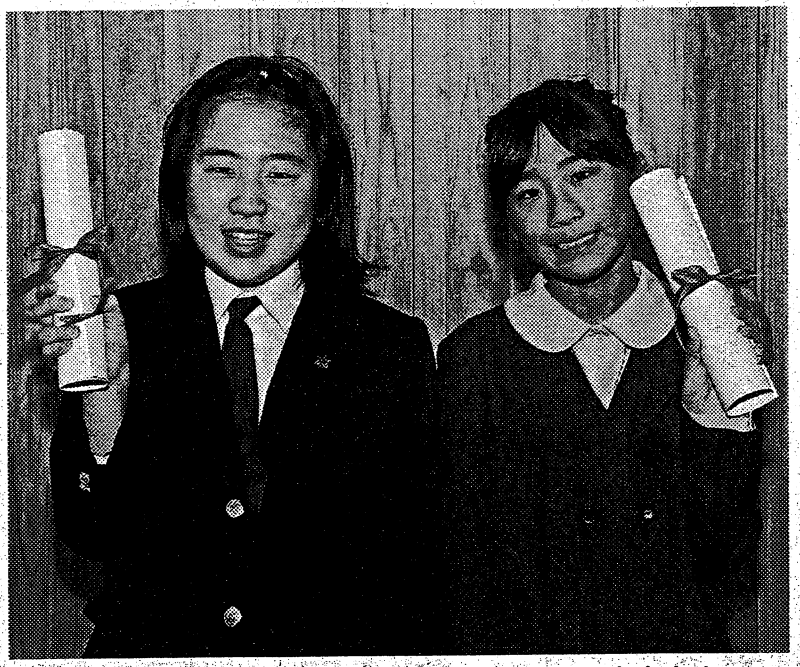
英語スピーチコンテスト

奨励賞に2人

小倉さん(岩田小)、尾原さん(田辺中)

第23回「ジョン・ケンドリック杯小・中学生英語スピーチコンテスト」(実行委員会主催)の決勝大会が11日、田辺市東陽の市文化交流センターであった。小学生と中学生の2部門があり、紀南関係では上富田町岩田小学校5年の小倉愛菜さん(11)と田辺中学校2年の尾原由衣さん(13)がいずれも奨励賞に輝いた。



奨励賞に輝いた小倉愛菜さん(右)と尾原由衣さん=11日、田辺市東陽で

1791年に通商を求めて串本町樫野に来航した米国商船「レディー・ワシントン号」を率いた船長ジョン・ケンドリックを顕彰する事業の一つ。子どもたちが郷土に誇りを持ち、国際交流の大切さを学び、英語力を磨いてもらおうと市民有志が始め、5年前に京都外国語大学校友会和歌山支部(佐武正章支部長)などでつくる実行委が引き継いだ。開催場所は和歌山市が中心で、田辺市では9年ぶり。

小学生の部に県内から44人、中学生の部には29人の応募があり、音声録音テープによる1次審査で小学生13人、中学生14人が決勝大会に進出した。

小学生は課題文の「Cinderella(シンデレラ)」「George Washington and His Hatchet(ジョージ・ワシントンと手斧)」「Belling the Cat(ネズミの相談)」から一つ選んで暗唱。中学生は自由なテーマで自作した英文を4分以内で弁論。いずれも身ぶり手ぶりも交えながら堂々と発表した。

それを京都外大の久保哲男教授やジェフ・バーグランド教授ら4人が、発音やリズム、イントネーション、身ぶり手ぶり、声の大きさなどを基準に審査。各部で最優秀賞、優秀賞、奨励賞を選んで、表彰した。

久保教授は「スピーチは強い思いを持つことが大切で、経験を語ると説得力がある。今年はレベルが高く選考が難しかった」と講評。小倉さんは初出場での入賞で「頑張って練習したことが十分に発揮できた。表現力に気を付けた」、尾原さんも初出場で「ずっと練習してきたかいがあった。本当にうれしい」と受賞を喜んだ。

小倉さん、尾原さん以外の各部の入賞者は次の皆さん。

【小学生】最優秀賞=池内桜(橋本市あやの台小5年)▽優秀賞=佐藤翔太(同)、溝端優(橋本市三石小5年)▽奨励賞=古賀帆乃花(和歌山市四箇郷小5年)

【中学生】最優秀賞=畑磨衣(智弁学園和歌山中1年)▽優秀賞=井本瑛希(有田川町八幡中3年)、小串楓子(日高高校付属中2年)▽奨励賞=マッカボイ葉奈(和歌山市西浜中3年)